

## 第2章 「めざす子どもの姿」を実現するための重点

### 重点目標⑧ 教職員の資質・能力の向上

教育への情熱を持ち、豊かな人間性を備え、自己相互研鑽を積み、確かな教師力を持った教職員をめざします。



# 1 教職員研修の充実

## ◆ ねらい

教職員としての専門性や実践的指導力、幅広い社会性や柔軟な発想、対人関係のスキル等を養い、さらなる教師力の向上をめざします。

取り組み指標	実績値 (平成 25 年度)	実績値 (平成 26 年度)	実績値 (平成 27 年度)	目標値 (平成 27 年度)
教師力向上サポートブック（教師力向上研修）の活用による研修の取り組み評価	3.1 (4点満点)	3.1 (4点満点)	3.1 (4点満点)	3.6 (4点満点)

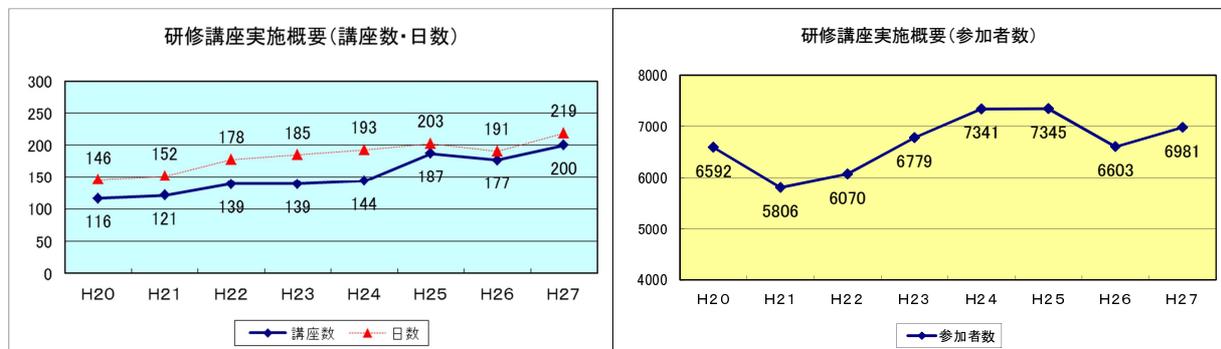
研修の取り組み評価としては平成25年度から横ばいの状況です。要因としては評価の方法やその対象が、具体的ではなかったことが考えられます。今後、教師力向上の取り組みについて、より計画・実践・評価しやすいものに変えていく必要があります。

## ◆ 現状と課題

### ○ 「自己相互研鑽」等を活用した研修計画と振り返り

「自己相互研鑽」等を活用し、管理職との期首面談を通じて、個人目標、その達成に向けての具体的な取り組みの決定をします。そして年度末には取り組みを振り返り、自身の課題についての考察に生かされています。

### ○ 教職員研修の現状（講座数・日数、参加数）



平成27年度は、平成26年度に比べると参加人数が増加しました。これは、若手教員を対象とした講座などを新たに実施したこと等により、研修講座数・日数がやや増加したためです。

### ○ ライフステージ別教職員研修

教職員研修講座では、それぞれの教職員が研修計画に基づいた講座選択ができるように、教職経験年数（ライフステージ）に応じた講座の充実を図りました。

若手教員研修（小中学校対象108人・必修講座3回、選択講座2回）や、ミドルリーダー教員研修（小中対象36人・必修講座2回、選択講座2回）、また今年度より、ベテラン教員研修（小中学校対象26人・必修講座2回、選択講座2回）を新たに実施し、各ライフステージにより応じた講座、自己の課題に見合った講座

を受講できるようになりました。

#### 【若手教員研修】

若手教員研修は今年度5月初めにオリエンテーション講座を実施し、受講者が見通しを持って研修が進められるようにしました。

夏季休業中には1学期の実践を各自が持ちより、同じ年代の教員どうしが授業づくりの課題や悩みについて考え合う場にすることができました。参加者の講座に対する満足度は高く、2学期からの授業づくりに生かせるものとなりました。



若手教員研修での研修の様子

#### ○ 課題

現在学校現場での教員の年齢構成は、ベテラン教員が約半数を占めています。ベテラン教員の教育技術を若手教員に継承すること、また協働して授業改善等に取り組むことが互いの教師力の向上に有効に働きます。

若手、ミドルリーダー、ベテラン教員等への研修を継続して実施するとともに、校内におけるOJTの推進を図っていく必要があります。

#### ◆ 今後の方向性

#### ○ ライフステージ別教職員研修の充実

受講対象者や研修のねらいを明確にした教職員研修講座を実施することで、各ライフステージに応じた教師力の向上を図ります。研修したことを教育実践に活用できるよう参加・体験型の研修を実施し、確かな教師力を育成します。

今後は若手やミドルリーダー、ベテラン教員対象の研修をさらに充実させるとともに、学校におけるOJTが有効に機能するよう支援します。



参加・体験型の研修の様子

#### ○ ニーズに応じた研修の推進

学校の現状や要請に応じて、初任者研修や若手教員研修対象者の授業を参観し、校内研修の進め方や内容等について相談やアドバイスを行います。

そのほか、それぞれの現場のニーズに応じた研修（ICTを活用した授業づくり等）で、助言や支援を各校・園に出かけて実施します。

## 2 研究協議会活動の充実

### ◆ ねらい

四日市市・三重郡内の幼稚園、小・中学校の全教職員（校長・教頭・教諭等）は、勤務校園を超えて35ある三泗教育研究協議会のいずれかに所属し、それぞれに研修テーマを設けて主体的な研修活動に取り組んでいます。また、研究協議会活動を通して保護者や地域の人々との連携も進めています。

研究協議会活動の運営の母体となっているのは、「三泗教育研修運営委員会（略称 三泗運営）」です。三泗運営は、三泗管内教職員の研修活動における事業の運営や調整について支援をしています。このような主体的な研修組織は全国的にみても大変特色あるものです。

### ◆ 主な取り組み状況

#### ○ 研究協議会の活動

研究協議会は、年間7回（5、6、10、11、12、1、2月）の定例日を設定し、授業研究、研究発表、実践発表、実技研修等の研修会を実施しています。

特に、授業研究については、今年度、「学校事務」研究協議会を除く、すべての研究協議会が実施しました。6月と11月定例日は「授業研究の日」と位置付けて実施することで、授業づくりについて、活発に討議することができました。

数年来、研究協議会間で連携する研修会も継続し、幼稚園と小学校、小学校と中学校あるいは専門別、課題別・問題別研究協議会が、相互参観による授業研究や協働的な指導方法、教材開発等の研究も行ってきました。

研究協議会名	協議会数	授業研究数
小学校教科別研究協議会	9	18
中学校教科別研究協議会	10	17
専門別研究協議会	5	5
課題別・問題別研究協議会	11	14
合計	35	54



小学校算数科教育研究協議会の一コマ

#### ○ 教育講演会、教育研究大会（課題別・問題別、教科別・専門別）

教育講演会、課題別・問題別教育研究大会では、教育の現状に照らしたテーマを取り上げ、保護者も参加できる形の研修会を実施しました。各研究協議会の研修成果を発表する場であるだけでなく、教育に関して保護者と意見が交流できる場にもなりました。

教科別・専門別教育研究大会では、研修成果を発表するとともに、講師を招聘して学ぶことで専門性を深めたり、2学期から活かせる教材づくりに挑戦したりする等、じっくりと研修を行うことができました。

開催日	講演会・研究大会名	場所	参加人数
8月19日(水)終日	教科別・専門別教育研究大会	24会場	1185人
8月26日(水)午前	教育講演会	文化会館	536人
8月26日(水)午後	課題別・問題別教育研究大会	15会場	981人

### ○ 研究協議会共催研修会

教育委員会と研究協議会が共催して、教職員の資質・能力の向上を図るための研修会を企画しました。また、教職員個々のステージに応じた研修、専門分野における実技・実践力の向上や課題解決につながる研修、参加体験型の実技研修会、講義・演習会等を実施しました。

実施講座数	合計参加人数
16講座	1,159人



食教育研究協議会；「基本調味料を作ってみよう！」

### ◆ 今後の方向性

- 各研究協議会では、教職員の資質・能力の向上をめざし、喫緊の教育課題に対応した実践的な研修会を実施します。そのためには、授業研究を中心に据えた研究会を年間1回以上継続して行い、指導方法や指導内容を磨くことで、授業改善に努めます。また、模擬授業、ワークショップ型研修会等、魅力ある研修会を企画・実施し、自己相互研鑽を推進していきます。
- 研究協議会間の連携を図ることで、互いの専門分野を交流させながら、より充実した研修を推進していきます。
- 教育委員会と研究協議会との共催研修会を実施し、互いの連携を深め、専門的で多様な企画内容の充実を図ります。
- 教職員が定例日の研修会に参加しやすいような環境づくりを進め、研究協議会活動の一層の活性化を図ります。
- 研究協議会活動で学んだ指導方法や指導内容が、教職員各自の勤務校へ還元されるように、教育センターHPで紹介するなど、取り組みを進めていきます。



小学校音楽科教育研究協議会；  
「だれもがすぐに実践できる音楽づくりの授業アイデア」



中学校数学科教育研究協議会；  
「中学校数学授業成功の極意」

### 3 校・園内研修の充実

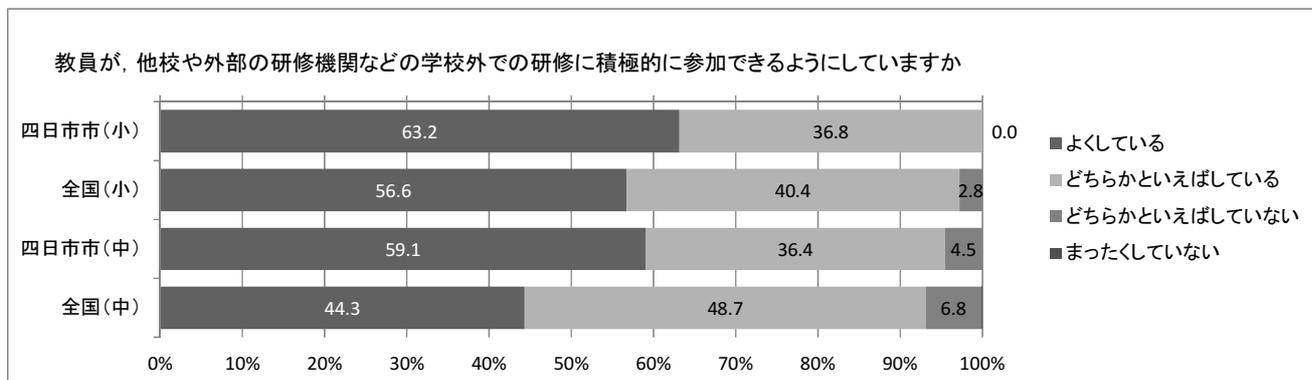
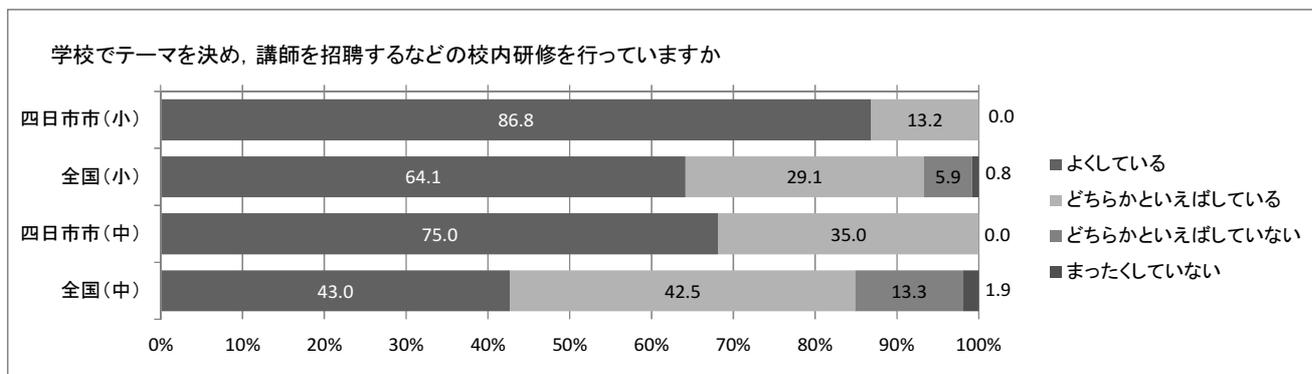
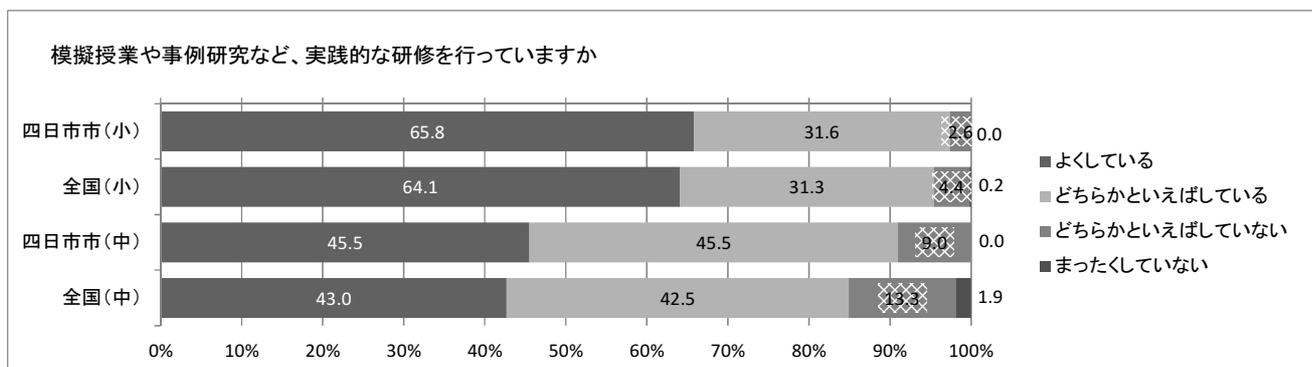
#### ◆ ねらい

校・園内研修を充実させ幼保小中での指導体制の一体化を図ることで、教職員一人一人の力量を高め、子どもの成長と学びを系統立ててはぐくんでいきます。

取り組み指標	実績値 (平成25年度)	実績値 (平成26年度)	実績値 (平成27年度)	目標値 (平成27年度)
教職員全員が相互研鑽のため授業公開をした学校・園の割合	98.5%	97.6%	97.6%	100%

#### ◆ 現状と課題

##### ○ 校園内研修の現状<平成27年度全国学力・学習状況調査 学校質問紙より>



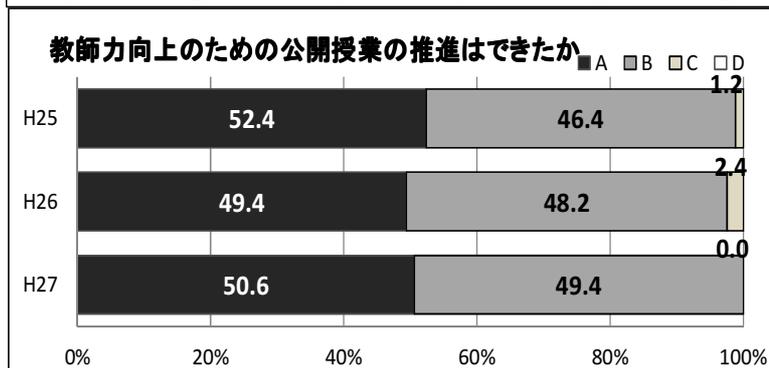
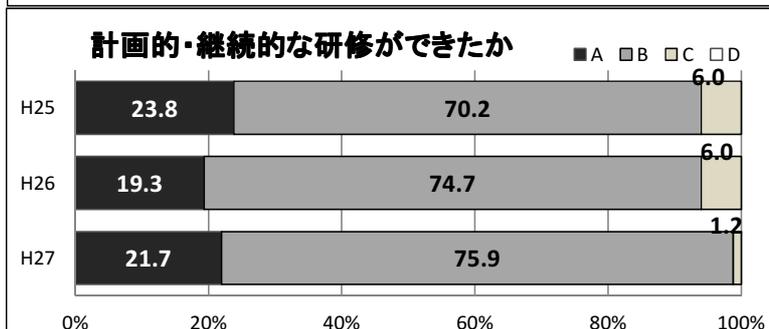
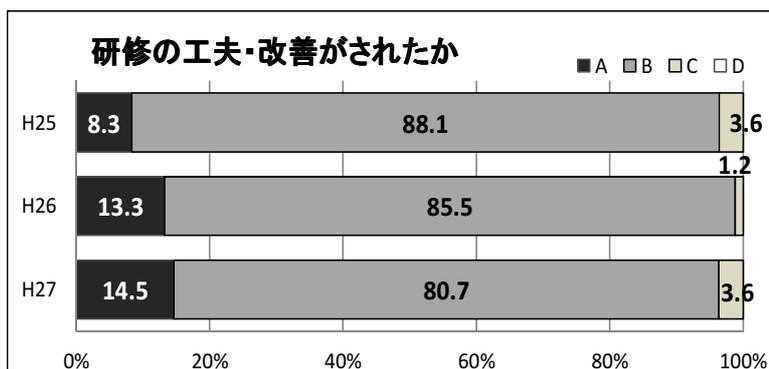
**重点⑧ 教職員の資質・能力の向上**

- すべての学校・園において、学校づくりビジョンに基づいた研修テーマを設定し、授業研究を中心とした校・園内研修の充実が図られています。また、授業公開を通して、相互研鑽する研修が定着してきています。
- 全国学力・学習状況調査の学校質問紙における状況から、全国との比較において、校・園内研修の充実が図られていることがわかります。授業の質の向上のために模擬授業や事例研究など実践的な研修を、今後も推進していきます。

**○ 研修に関する各学校・園の反省**

＜平成27年度学校・園教育活動の評価から＞  
 (幼稚園23園 小学校38校 中学校22校)

- 各学校・園の反省からは、工夫・改善に努めながら計画的・継続的に研修を進めていることがわかります。
- 各学校・園とも、授業公開等を積極的に行い、授業改善に努めています。
- 全小中学校で内容、指導等について分析・検証する授業研究や指導方法の研究に重点をおいており、確かな学力の向上をめざした校内研修が進められています。
- 全学校・園において幼保小中の連携を重点にした研修を進め、学びの一体化を推進しています。



「A」：十分 「B」：おおむね十分 「C」：やや不十分 「D」：不十分

○ 三重大学教育学部等との連携による校・園内研修会の実施回数

( ) 外は総数, ( ) 内は三重大学以外

	学習指導・ 授業づくり	生徒 指導	道徳	健康・ 体力向上	特別 支援	家庭・地域 との協働	その他	合計
幼稚園	0	0	0	1	11(2)	0	2	14(2)
小学校	43(5)	0	0	0	0	0	1	44(5)
中学校	3	0	1(1)	0	2	0	0	6(1)
合計	46(5)	0	1(1)	1	13(2)	0	3	64(8)

- 三重大学教育学部を中心に、大学教員を各校・園に招いて研修の充実に努めています。同じ大学教員から年間を通して継続した指導、助言をもとに、実践を進めることによって、成果をあげている学校が増えています。

○ 指導主事の派遣

月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
回数	30	103	21	102	24	90	88	15	40	41	7	561

- 各学校・園から要請を受け、各種研修会等における助言や指導のために指導主事が学校・園を訪問しています。要請以外でも、随時、学校・園を訪問し、指導や助言、相談に応じています。また、指導主事は関係機関を訪問し、学校との調整に努めています。

◆ 今後の方向性

- 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るとともに、問題解決能力の向上をめざした校内研修の充実を図っていきます。
- 各学校・園内での日常的な相互授業公開や実践交流の実施を一層進めます。
- 校区が一体となった研修推進体制の充実が図られるよう、学びの一体化の取り組みをさらに進めます。
- 全国学力・学習状況調査を活用し、各校の教科指導の充実と学習状況の改善を図る目的から、学力向上に関する研修会を設定し、学校における改善の取り組みへの支援を行います。校内研修の効果についても、子どもの姿を通じて検証を行い改善を図っていきます。
- ライフステージに応じた各種研修会への積極的参加を促すとともに、校内で研修内容の共有化を進めます。